< 議題 2 >

- ・「親密な関係性」について、捉え方を明確にしておいたほうがよい。現状の近所づきあいの程度と今後の付き合い方（向かうべき方向）が分かりにくい。
- ・ボランティア活動参加の「ハードルを下げる」という表現が分かりにくい。具体的に何がネックになっているのかを明確にして、「ハードル」の意味を明確にする。
- ・「ボランティア活動の復活」を考える場合、コロナ禍以前の状況や水準に戻すだけではなく、得た教訓（例えば人と対面しなくてもできる活動など）を考慮して、活動の幅を広げるという視点も必要ではないか。
- ・「対話を通じて共有できる場づくり」とはどのようなものか？それが導き出される根拠を知りたい。根拠となるデータやその内容の捉え方を明確にし、もう少し具体的な記載が必要では？（現在の活動との関連。その発展形なのか、あるいは新しいプラットフォームが必要だと考えるか。現在の共有できる場の改善を含め）
- ・相談について、一般市民に向けたものというより、「困ったときにすぐ相談できる」場所の周知やそこにつなげる体制を構築すべき。身近なところで、継続的に情報発信をすることと、外国人などアプローチが難しいと思われる人へのつながりをどのように持つかが問題。（例えば、保育園や学校、病院など、普段なじみのある施設・機関等との連携が重要だと考える）
- ・分野にとらわれない相談体制については、どのような相談がどの程度あるか、またその対応のためにどのような連携や仕組みが必要なのか、具体的なイメージを持つ必要がある。そのためには市内での分野横断的な対応事例や困難ケースへの具体事例を示しながら、具体的な体制を共有化する必要がある。分野協働や他機関連携が具体的にどのように必要かを明示する。（柏市における重層的支援体制の考え方のイメージ化）
- ・どのような層がどのような情報を必要としているのか。また、そのような層への働きかけが必要と考えているのか。この辺りのターゲットを明確にして、情報提供や施策の充実強化を図るべきだと考える。

・「住民参加で、共に地域課題の解決につながるような、共創型の活動の充実」というところがイメージがつかめない。もう少し解説を加えて、例示などあるとイメージしやすい。

・支援体制の強化を図るうえでも、共通の課題への対応意識が持てることが重要。その意味で「防災・防犯」の体制整備を核に環境づくりを進めるのが良い（柏市の地域特性や人々とのつながりの特性を踏まえて、こうした環境づくりを行う）

・中高生アンケートから見る「安全・安心に暮らせるまち」というのは、ぜひ次期計画に反映してほしいと思う。他市でこのような意見を反映させているところはあまりないし、都市型の地域福祉計画の中で、若年層の存在を意識して「安心して暮らせる環境」を考えるのは、今後「柏市に住みたい・住み続けたい」という若年層を増やす意味で有効であると思う。

< 議題 3 >

・挙げられている3つのキーワードについて、計画全体にどのように関係しているのか説明があるとよい

< 議題 4 >

・「…に向けた学びの場…」を「…に向けた気づき・学びの場…」としてはどうか。学びにつなげるためにも、「気づき」は必要である。

・活躍支援の標記については大変良いと思う。育成だけでなく、活躍できる場を積極的に紹介することは大変良い考え方が理解でき、大変良いと思うが、基本施策の標記をもう少し工夫したほうがいいのではないか。少し伝わりにくい。

・「丸ごと相談」のイメージが伝わるか？これが定着しているのであればよいですが、一般の方には「分野に関係なく」や「分野横断・連携できる相談」のような標記のほうがよいように思いました。

・「対話の場づくり」を「地域のプラットフォーム」として考えてほしい（対話を促進するためにも「コーディネート機能」を付け加えてほしいと思う。

・この新規項目は大変良いと思う。特に中高生のアンケート結果か

らこの層へのアプローチが「重層」との関係で、何かの政策的な視点を打ち出せるとよい

- ・ 基本的な考え方で「あらゆる人」の中には社会的マイノリティ、外国人など多様な方々のことだということを視点として入れてほしい

- ・ 「防災対策と災害時の支援体制の充実について」は、復興に向けた支援（被災後の復興）という項目も入れてほしい。（災害対策基本法における「防災」には「被災後の復旧支援」が含まれていることから）